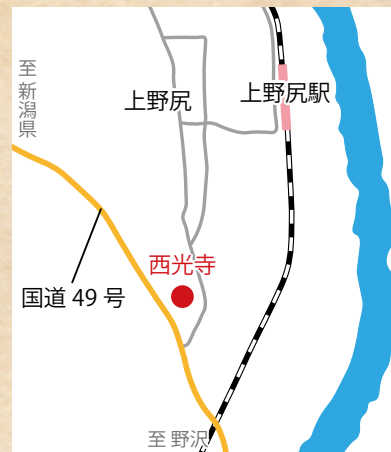


上野尻・西光寺の山門等の改修

野沢から国道49号を北上すると、磐越西線の跨線橋を過ぎた右手に山門や大きな杉に囲まれた参道、中門とその二階の鐘撞堂、その奥に大屋根の本堂など、広大な敷地に整然とした伽藍が並ぶ様子が目に飛び込んできます。浄土宗の無量山西光寺です。「紙本著色蒲生氏郷像（1950年に国の重要文化財に指定）」が存在し、古刹として全国にその名を轟かせています。寺の縁起などを紐解くと「開基より今に数百年、遺記の全備するものなく創業を詳かにせず」とあり、また「現在地より西の山中に存在した」とも記され、町内でも古い寺であるともされています。



さて、平成30年（2018）3月1日の夜半でした。町内を強い風が吹き抜け、西光寺の山門が悪戯な風に持ち上げられ倒壊してしまいました。倒壊した山門は銅板葺きで気品あふれる美しいものでした。1960年代半ば頃に建て替えられたそうなので、50余年ほど前の建築だったようです。

早速、檀家の皆さんが集まり、再建のための計画が練られました。倒壊した山門同様、気品と美しさを兼ね備えたものにする事、中門とその二階の鐘撞堂も傾きが見られるため再建すること、寺の南側に大型車輛も入れるような駐車場を作ること、参道の杉並木の間引き、参道沿いに建てられている御堂や碑の改修、以上のことが決められ、多くの皆さんの浄財を基に工事に入りました。



再建された山門



中門

改めて、神社仏閣は火災に遭ったり災害に見舞われたり場所を移転したりする度に、その時代の人々の厚い信仰心や血のにじむような苦勞に支えられながら再建、改修を繰り返し、現在の私たちを静かに見守ってくれているということを改めて感じることができます。

今月の表紙

今月は、9月13日に行われた奥川・出戸地区の岩屋虚空蔵尊の御開帳より。例年は祭礼を行っていますが、今年は参拝者を町民限定として御開帳のみが行われました。集落から30分程歩いたところにある岩窟のお堂には町重要文化財である「岩屋虚空蔵菩薩坐像」（左写真）のほか、願い事をしてから持ち上げる「おびんずる様」（表紙写真手前）が祀られており、500年以上にわたり、集落の人々の信仰を集めています。



編集後記

編集後記は、何を書こうか毎回悩んでいます。また、今回のように、書けるスペースが小さいとさらに悩んでいます…。（泰）